

研究・調査報告書

報告書番号	担当
76	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Association of adolescent symptoms of depression and anxiety with alcohol use disorders in young adulthood: findings from the Victorian Adolescent Health Cohort Study. アルコール飲酒による異常がもとなる青春期のうつ病と不安 : Victorian Adolescent Health Cohort Study から	
執筆者	
McKenzie M, Jorm AF, Romaniuk H, Olsson CA, Patton GC.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Med J Aust. 2011 Aug 1;195(3):S27-30.	
キーワード	
飲酒、青年期、うつ病、不安	
要 旨	
目的： アルコールに対する乱用や依存と青年期のうつ病や不安との関係性を検証する。	
方法： 青年の健康に関するコホート研究では 1992 年から 2003 年に掛けて 14 歳から 24 歳までの被験者の 8 期間におけるデータを収集した。14 歳から 17 歳に掛けて 6 か月間隔で設定されている 6 つの確認期間でコホート研究に参加した被験者でかつ、若い成人の期間に参加した被験者または第 8 期において生存していた被験者を対象にした(n = 1758)。アルコールの乱用もしくは依存の度合いは 24 歳における Composite International Diagnostic Interview で用いるアルコール等で確認する。	
結果： 青年期に低レベルのうつ病や不安を患っていた若い成人と比較して、並～高レベルのうつ病や不安(Clinical Interview Schedule 改訂版により測定)である青年ではアルコール乱用もしくはアルコール依存のリスクが増大した(交絡因子調整後)。青年期に病状のなかった群と比較して、青年期の 2 つ以上の確認期間(オッズ比 1.9; 95%信頼区間 1.7-2.0)と 1～2 個の確認期間(オッズ比 1.3; 95%信頼区間 1.2-1.4)において病状のあった群ではリスクが高かった。	
結論： うつ病や不安を患っていた青年では若い成人にかけてアルコール摂取障害のリスクが増大する。これらの事実は成人にかけてのアルコール摂取に警戒を促している。	